

# 福祉用具共通試験方法－傷接触回避機能

## Common testing methods for assistive products－ Evasion of Contact Injury Function

### 序文

この規格は、福祉用具に付随する“機能”に着目した福祉用具の品目にとらわれない共通試験方法である。これらの機能別の試験方法の組み合わせによって、様々な福祉用具について最低限のリスクを評価することが可能となる。

### 1 適用範囲

この試験方法は、りひかなど、傷等の患部に、布団等の荷重がかからないようにする用具の機能を持ったものに適用します。

### 2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS L 4403 ふとん

JIS Z 8703 試験場所の標準状態

### 3 試験装置類

#### a) おもり

1800mm×2100mm で約 10kg の重量がある布団又はそれを模擬したもの。（耐荷重試験）

1800mm×2100mm で約 5kg の重量がある布団又はそれを模擬したもの。（耐久性試験）

注記 おもりの寸法は、JIS L 4403 の掛け布団の規格Wを引用し、重量は耐久性試験の規格に規定されている内容量で、耐荷重試験は内容量の約2倍とした。

#### b) 試験環境

試験は、JIS Z 8703 に規定する温度  $23 \pm 5$  °C、相対湿度  $(65 \pm 20)$  %で行う。

### 4 試験方法

#### 4.1 耐荷重試験

用具を製造者が指定するとおりに設置し、図1のようにおもりを用具の中心とおもりの中心が一致するように載せ、14.5時間放置する。試験終了後、使用に耐えられない破損や、亀裂、変形などが用具にあるかどうかを目視で確認する。

参考 絶対臥床者の平均睡眠時間は 14.5 時間と言われているが、この試験方法では寝たきりの方を想定して 24 時間とした。

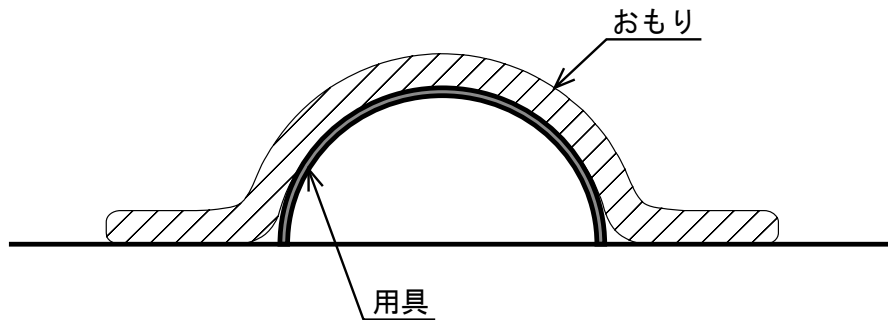


図 1 耐荷重試験

#### 4.2 耐久性試験

製造者が指定する方法で用具を設置した後、おもりを載せる動作とはずず動作を 1 回とし、2000 回繰り返し荷重を加える。試験終了後、使用に耐えられない破損や、亀裂、変形などが用具にあるかどうかを目視で確認する。

参考 1 回 (1 日に使用する回数) × 365 日 × 5 年 = 1825 回で、約 2000 回とした。